

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100966		
法人名	NPO法人ささえ愛ひかりの家		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	熊本市西区河内町白浜イ2238		
自己評価作成日	平成25年3月20日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成25年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者それぞれの人生を大切に思い、安全面に対する工夫や喜びを感じながら過ごしてもらえるよう、配慮をしながら関わっている。病変についても、介護・看護が連携をして早期受診に繋げる様努めています。職員同士の思いやりもしっかりできており、勤務交代、役割交代等がスムーズに出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

NPO法人ささえ愛ひかりの家が運営する小規模多機能ホームに隣接して、地域のニーズに応え、グループホームと高齢者ホームが23年8月に開設されている。入居者はほとんどが90歳代という状況に入居者のみならず家族にも後悔の無いようにと全職員が意思・ケアの統一を図り、職員の明るく自然なケアは入居者の笑顔を引き出し、入居者同士も仲良く語り合う等和やかな日常を支援している。管理者を中心に、何事も合議制によりやりがいのある環境とし、自分たちで作上げた理念をケア規範として真摯に取り組む姿は家族からの手紙の中にも表出している。地域の中での生活拡充への取り組みや運営推進会議が功を奏し、地域の中での基盤は盤石なものであり、今後も認知症ケア啓発等の展開に大いに期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員トイレに理念を書いた紙を貼っており、それが実践出来るように心がけており、実践できている。	開設時全職員でBS法により作成した理念には、気持ちよく穏やかに過ごしてもらいたいという気持ちを込め、玄関先の掲示により訪問する方へ向けた啓発とし、職員トイレに掲示することで意識付けとしている。地域密着型サービスとしての姿勢や職員のケア規範として生かされ、認知症サポーター養成講座を通じてネットワーク作りに取り組んでいる。	開設して日が浅く、日々ケアを中心とした申送りの徹底や認知症ケアを中心とした勉強会が行われている。全職員の思いが理念に込められており、更に理念を振り返る機会を持つことにより、次のステップに繋がれることを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や庭での作業中に挨拶しており、地域の行事にも参加している。小学校との交流・保育園の発表会、相撲見学や祭りに参加している。	同NPO法人が運営する小規模多機能ホームに隣接して開設したグループホームであり、地域の中での基盤は確立している。散歩される住民への声かけや入居者と一緒に竜神宮の掃除に出かけたり、小学校や保育園との交流、子ども相撲には手作りお菓子を用意し出かけ、イチゴ農家からの好意によるいちご狩り等地域での生活は充実している。また、近隣住民と一緒にちまき作りや餅つきに取り組み、職員も地域の祭り(とんしゃ)には出し物を出す等地域の一員として活動している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講演会・研修の機会・話し合いはしているが、実践には至っていない。地域の方々が立ち寄りができるよう心がけている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では出席者全員から貴重な意見を頂いており、活かしている。	小規模多機能と合同で開催している運営推進会議は利用者の現状報告の他、協議事項を提示し、意見交換が行われている。ひやりはつとや困難事例等も開示しており、透明性のある運営体制であることが議事録に表出している。参加委員も積極的に意見が出されており、避難経路や行方不明時の協力体制等が論議され、加齢等による下肢筋力低下にはビデオを取り入れる等工夫しながら会議を進行させている。	有意義な会議であることは議事録により確認された。委員からの提案事項等の進捗状況の報告や結果も記録として残すことを検討され、今後もこの会議を通してサービス向上に反映されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難な事例、相談事項があった場合には、相談していく考えであります、現在まででは行っていない。市の担当者との連絡もなされている。	社会福祉協議会からの運営推進会議参加時の情報交換や、行事への参加協力を依頼されたり、農村広場でのたこあげ大会時にはトイレを提供する等良好な関係が築かれ、生活保護担当者との連携や権利擁護利用者対応等相互協力を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアに取り組んでいる。ベッド4点柵をせず、布団を敷いている。カギは施錠せず足元センサーマットを玄関におくなど、禁止となる具体的な行為を正しく理解している。	身体拘束について勉強会の開催により認識を深めており、4点柵の代替えとして床に布団を敷いたり、夜間のみセンサーマットを利用する等リスク回避方法を検討しながら拘束の無いケアを実践している。帰宅願望や徘徊も制止することなく一緒に外に出る等個々の状況を把握し所在確認に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会・研修に参加しており、虐待のないように全員がケアに当たっている。人権を大事に大切な個人として接している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人は分からない。常勤：勉強会で理解できている。グループホームこれまで、その様な相談をされる方がいない。実子がいらない方は、親戚の方で面倒みておられ、管理者からの伝達や新聞等で学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	職員はできていると思う。管理者から家族に対する説明はなされている。家族には疑問点があれば申し出てくれるよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来るだけ遠慮することなく、意見や要望はいつでも申し出てくれるよう伝えている。意見・要望を活かして家族面会時には伺い、取り入れている。サービスの質の向上につなげるよう努力している。新人はまだできていない。意見箱の設置をしており、反映できるよう努力している。	入居者との関係が築かれ、日々会話や表情等から把握しケアサービスに反映させている。家族へは遠慮なく申し出てほしいことを伝え、ホームから善し悪しの如何に関わらず情報を発信し、面会時に意見や要望を聞き取りしているが苦情の申し出は無い。家族によっては手紙により思い等を伝えられおり、入居者の元気になられた様子に感謝の言葉は職員のモチベーションとして生かされている。ホーム内外の苦情相談窓口を明示し、契約時に説明している。	家族との関係性が良好であることは、頻繁に訪問される家族や野菜の差し入れ等に表れている。意見箱を設置しているが利用は無く、今後、家族会の設立に向けご尽力いただき、家族との意見交換や家族同士の交流の場とされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで各人の意見や提案を反映されている。(気づきノートをつけている)	全職員で話し合い、全員で決めるホームとして働きやすい環境を全員で作りたいと日々管理者は職員とのコミュニケーションを図り、お互い言い合える環境を作っている。毎月のミーティングでは気づきノートをもとに話し合い、職員の観察により転倒予防に手すりの設置や介護負担軽減に風呂場にリフトを設置している。職員の希望を優先させた勤務ローテーション等働きやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	配慮されていると思う。就業環境の条件、整備に十分努められている。研修参加への配慮。残業をしない等なされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修の機会がある。法人内外の研修を受ける機会が確保されている。個人では、参加できていなかったり、研修参加を勧められたり、研修学習の機会がありできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加をしていないので、出来ない。他施設での研修を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	耳を傾けるようにしている。本人との信頼関係がもてるよう話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心配されている事は尋ねてはいない。家族とも良い関係が保てるようにしている。管理者は関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めは馴染みの関係構築への取り組み、安全に対する配慮から入り、徐々に要望にこたえられる様取り組みをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	能力、個性等が見えてくる中で、より深く知る事が出来ている。一緒に過ごせる事を大事に考えている。暮らしを共にする者同士として、会話をもっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に報告、相談しながら家族と一緒に支えていく姿勢である。家族とも共に支え合うものとして自覚している。家族にも、本人にも良い関係を築いて頂ける様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人宅へ行かれる手伝いをしたり、買い物に行くなど楽しい時を過ごすことが出来る様努めている。新人はまだできていない。	ご夫婦での入居や家族・知人の訪問、昔から付き合いのある知人の自宅に定期的に出かける方、「生きているうちに墓参りしたい」との希望に県外であっても希望を叶えさせたいとの意向もある。又、正月帰省できない入居者には正月気分を楽しんでもらい、初詣やお彼岸のおはぎ作り等馴染みの人・場所・慣習等を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会議の席は利用者間関係作りを考えている。ゲームの時は、協力できるような声掛けをしている。利用者同士の関わりが出来る認知レベルではない。利用者が一緒に集まり、活動への参加を促し、孤立させない様配慮している。また、孤立されることのないよう心がけている。トラブルに発展しないような介入、一緒に散歩や塗り絵をしているが、口論になりそうな時は仲介し、距離をおくようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真、手紙を確認できている。新人:家族との挨拶はしているが、相談は行っていない。その他職員は家族と今後について相談にのっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を聞き、思いに心をよせている。努めている。自分ではできていないと思うが、希望、意向の把握に努めている。	入居者自身の希望や思いを会話の中で聞き取りし、その時の気持ちに添うよう努めている。意思疎通困難・会話が繋がらない等様々な状況にジェスチャーで示しながら反応を共有し、表情・行動等での推察等、その人に合わせて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話を十分にしている。人格・人生を知り、より深く長く関わられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録で発見した変化を記録し、職員全員で情報を共有している。利用者のできるを発見し、できなくなっている所をみつけてスタッフ内で共有し、いつも気にかけて見極める様努力している。また、好きなもの、できることなど見つけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにより、臨機応変に見直している。ケアに活かしている。カンファレンスで話し合い、家族の方にも了解を得て行っている。その他、月のミーティング・毎日の申し送りでも出来ている。	入居時には短めの目標のもと暫定プランを立て、まずは背景や本人を把握した上でプランを策定している。毎月ケースカンファレンスを開催し、気づきノートを活用した話し合いにより変更すべき事案を追記している。介護認定更新時には本人・家族の意向を再度聞き、ADLから見直し、具体的且つ詳細なプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきは、日々の記録に残し、カンファレンスで話し合い、介護計画に活かしている。カンファレンスでケアの変更をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ている(民生委員・ボランティア・病院・警察・消防)。花、野菜を育てたり、散歩を行い暮らしを楽しんでもらっている。できていない意見やよくわからないという意見もあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望等により、これまでのかかりつけ医を継続して支援したり、専門医（認知症・皮膚科・歯科等の他科受診）を支援している。状況を正確に伝え、医者からの指示に従い支援している。	本人・家族の希望に添い入居前からのかかりつけ医としており、受診時は家族やホームで連絡を取り合い医療機関で待ち合わせたり、遠方の医療機関には予約を入れて対応している。受診には出来る限り看護職員が同行し、申し送りノートで医療連絡事項に印を付け全職員で共有している。職員はバイタルチェックのみならず様子観察で異常の早期発見に努め、看護職とのオンコール体制を図り早めの受診を心がけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ている（早期発見・早期受診）職員→看護師への報告など皆で状況を共有し支援している。変化に注意しており、看護師・管理者へ相談している。申し送り連絡ノートを作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている。（介護サマリー・カンファレンス参加）わからないという意見もあり。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	マニュアルはあるが、終末期支援の実績はない。上司より状況の報告を聞き、フタッフ共有に努めている。	重度化や終末期に対するホームの方針を作成し、入居時に説明同意を交わし家族の意向を聞いている。入居者の心身の状況変化時には家族や主治医との話し合いを持つと共に、事例や予測される事態に対する対応等、悔いの残らないように相談を繰り返している。マニュアルを整備し、看護面や吸引等の勉強会が予定され、職員間のレベルアップに取り組む意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会があり、身につけるようにしている。吸引量の使い方などを習った。訓練は定期的には行われていない。宿直室に緊急時の対応を貼ってある。研修や勉強会でも練習を行った。伝達方法は指示してあり、話し合う機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜勤者は勤務前に火災発生時の消火・避難訓練を行っている。地域住民との協力体制の話はきいているが、よくわからない。	年2回の火災避難訓練を実施し、消防団にホーム内の構造を見てもらい、夜勤前にはホーム内の避難通路に沿って先ずは実際に動いてみて夜勤に入っている。新築のホームにはスプリンクラーや自動通報装置等が備え付けられ、喫煙場所を戸外に設置している。今後は近隣にも訓練の参加への呼びかけをしく意向であり、地域の津波訓練に参加している。	地域の老々生活者の見守り等住民を支援しており、訓練への呼びかけが予定されている。今後も近隣住民との相互協力体制の話し合いに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の確保に努めている。人格の尊重については、難聴の人に対して敬語が使われていないことがある。なれあいの言葉にならないよう気をつけている。申し送り時もイニシャルを使っている。	入居者への尊敬を念頭に本人に分かり易い言葉での話しかけや、親しみの方言が馴れ合いとならないように配慮し、職員は声のトーン等にも注意している。地元で顔見知りの関係という事もあり、管理者は入居者の個人情報保護や守秘義務の徹底を繰り返し指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ている。引き出すようにしている。意思の伝達、聞き取りが困難な人への配慮もしている。利用者と話しながら行っている。食事の内容(希望)を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になりがち、どうすごしたいのか、聞く認識が不足している。希望を発信出来る人が少なく、職員側からの提供が元に行われている。声掛けをしている。拒否があれば無理しない。行動や状態に合わせて出来ている。利用者の思い、行動を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは大事と考えている＝落ち着きと明るさを生むよう支援している。散髪は床屋に来てもらい、入浴後の整髪はその人に似合う様心がけセットしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に合った献立をたてている。出来ていると思うが、調理手伝える利用者が少なくなっている。(出来る事、出来ないことがそれぞれにある。)	入居者の嗜好を取り入れ、選択肢などにより好みの献立を尋ねたり、買い物への同行や下ごしらえ・つぎ分け・茶碗拭き等入居者は出来る事や干し柿作り等の得意事を一緒に行っている。食事時間は職員も同じテーブルと一緒に食事し、介助や見守りをしながら会話で食思意欲を引き出している。入居者の要望に応えた寿司屋やファミリーレストランでの外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、水分量を考え食事の支援をしている。食事摂取記録、水分チェック、体重測定などをみて、支援している。食事量が少ない時は、パン等軽食で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りや介助をしている。毎食時個別のケアができています。においにも配慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで用をたす支援をしている。状況判断をしながら必要時はスタッフ間で話し合いをもつようにしている。各人に合った方法を考えるようにしている。一人一人の排泄パターン合わせ介助している。	自立され自分で行かれる方もあるが、一人ひとりのパターンを把握し時間や様子を察しトイレへの誘導や、レベルに合わせ必要な部分を手伝っている。個々の問題点を申し送りして話し合い、季節や昼夜で下着や排泄用品を使い分け、失敗を減らし気持ちよい排泄を支援している。又、夜間はポータブルを使用される方もおられ、洗浄・消毒で清潔を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な下剤使用や朝の牛乳等個々に応じた対応をしている。便通表でチェックし下剤等で支援している。利用者各人の排泄習慣を把握し、工夫している。本人の苦痛とならないように配慮し、体を動かしたり、水分をとったりと努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の時は要望を優先している。(夕方の入浴になると急変した際かかりつけ病院が開いていない為)午前中の中入浴を基本にしている。体調に合わせて入浴の介助をしている。個人の希望に合わせて行っている。希望の発信が出来る人が少ないので、声掛け誘導している。タイミングに合わせての入浴ができています。歌ったり、話しながら穏やかに入浴できるようにこころがけている。	入居者の希望に合わせて午前・午後と一日を通し支援し、季節に合わせて時間調整を行ったり、個浴でゆっくり湯ぶねに浸かってもらい職員との会話の時間を持っている。又、浴槽にはリフトが導入され、入居者の安全・安心や職員の介護負担軽減となっている。入浴拒否がある時は無理強いをせず次の日に入ってもらったり、家族の声かけで入居前に出てなかった入浴がホームで出来るようになる等改善が見られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出や散歩を実施したり、本人の言葉に傾向するなど安心出来るように心がけている。各人に合った(希望を考慮)時間に休んでもらうようにしている。様子をみながら休息してもらうようにしている。自由にされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夢の内容や薬の目的も確認するようにしている。誤薬とならないよう行っている。病状変化は記録している(臨時薬・変化後など)。薬の効果や副作用にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけ(役割:体操・歌・作品作り・など楽しめる時間をもつようにしている)手伝いを依頼している。個人がやりたいことを行ってもらうようにしている。外出の実行・料理の手伝い		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる範囲で行っている。(近所のレストラン・寿司屋への食事、知人宅への外出、サロン、買い物、図書館、ドライブ、散歩、花見など)	ホーム周辺の散歩や買い物、本を借りて図書館に行ったりと日常的に出かける機会を持っている。又、四季折々の花見、初詣やもう見物、ドライブ等に車椅子の方も一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は管理者が行い、要望に応じて小遣いを渡して買い物に同行する。現金出納簿帳に記載し、本人の代わりに介護者・依頼者に確認をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の支援している。手紙は手渡しし、一緒に読むがプライバシーに配慮して、自立にて読んで頂く		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除の支援(清潔)や、季節の花を飾る様支援している。空調の調節、尿臭異臭がないよう、洗濯をまめにしたり、布団をほしたり、芳香剤の使用などをして居心地良く過ごせる工夫・支援をしている。また、その季節にあった塗り絵をしてもらい貼っている。	新築のホーム内はバリアフリーが行届き、玄関には職員が持ち寄った季節の花が活けられている。食事準備の音や匂いが漂う対面式の台所が配置され、入居者は明るくゆとりあるリビングダイニングでテレビを見たり、時にはバルコニーでお茶を楽しんでいる。車椅子の高さに合わせた洗面台等入居者に配慮した造りであり、換気や温湿度管理により快適な共用空間としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人と過ごす時間や、少し離れたところでいてもらうように配慮している。食事の座席位置は、利用者同士の関係を考えている(気楽に話せるように)。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、自分の持ち物を使うようにして、思いで話ができる心がけている。自宅と同じベッドの高さや置き位置を心がけている。	居室は安全性と自宅に近い環境に心がけ、持込みが自由であることを入居時に説明し、タンスや仏壇テレビ等が持ち込まれ、家での様子を確認したベッド配置や高さも本人に合わせてレイアウトしている。ドアには新たに手すりを設置する等安全面からの環境整備や夫婦で隣同士の部屋を使用する等、個々に合わせた部屋作りがされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人に合わせた手すりの設置をしている。 尿とりパットを使用せず(紙パンツのみ＝自立)、導線に物をおかない(廊下はスッキリ)、夜間は部屋から車イスを出し(一人での乗り移り等がない)歩行器使用、イスを押しての歩行訓練、安全に自立した生活ができるようにしている。		